Together with Iwate and its people

岩手大学三陸復興・地域創生推進機構レター

岩手の“大地”と“ひと”と共に

VOL. 14 NEWS LETTER

http://www.iwate-u.ac.jp/koho/newsletter.html ◁岩手大学ホームページからもご覧いただけます。

国立大学法人 岩手大学
地域連携推進部
地域創生推進課
〒020-8551
岩手県盛岡市上田四丁目 3-5
TEL.019-621-6629
FAX.019-621-6656
E-mail. sanriku@iwate-u.ac.jp

2019 年 10 月 25 日発行

date 7.18 8.9 「沿岸北部地域の気象の特徴と園芸振興」、「農業振興車座研究会」の開催

三陸復興部門園芸振興班は、令和元年 7 月 18 日（木）に久慈市役所で「岩手大学　沿岸北部地域の気象の特徴と園芸振興」と題した研究報告会を開催し、続いて 8 月 9 日（金）に野田村生涯学習センターで「岩手大学　農業振興車座研究会」を開催しました。

沿岸北部地域の気象の特徴と園芸振興

久慈市での報告会は、当地域の気象に適す栽培作目を考えたいという久慈市のニーズに答える調査結果の報告を兼ねました。調査は、当機構が実施する平成 28 年度の地域課題解決プログラムで開始し、松嶋卯月准教授と岡田益己客員教授が担当しました。久慈市内 3 箇所の農業ハウスで実施した 3 カ年にわたる気温及び地温の測定結果と近隣地域のアメダスデータを解析し、三陸沿岸北部の気温特性を野菜栽培の観点からとりまとめました。

この結果、特に 12 月初旬から翌年 1 月末の期間は、沿岸北部地域は日々の気温変化と一日の気温較差が大きく、沿岸南部はもちろんのこと内陸に比べても、凍害が発生しやすいことがわかり、凍害対策と凍害発生時期を考慮した農作物の作型と栽培の重要性が指摘されました。この他、同班が沿岸地域での栽培普及に取り組んでいる小型のカリフラワー「姫かりふ®」の官能試験や百貨店等でのテスト販売の内容を松嶋准教授が紹介し、これに関する意見交換を行いました。

野田村での研究会では、夏秋どりイチゴと姫かりふ® の栽培紹介を中心とし、教員の説明に参加者が随時質問する形で進行しました。その様子は大学でのゼミナールさながらで、夏秋どりイチゴに関しては栽培設備の仕様と耐用年数、またそのコストに関する活発な意見交換が行われました。野田村では、独自性がある農産物を栽培し、産直での販売強化や飲食店との契約栽培取引を考えたいという農業者の意識が窺え、園芸振興班が事務局を担う勉強会への参加を希望する農業者もいました。

参加して頂いた農業者へのフォローはもちろん、他の市町村でも意欲ある農業者との交流機会を設けられるよう活動を進めていきます。

農業振興車座研究会

「姫かりふ®」は岩手大学の登録商標です。詳しくは、QR コードをご覧ください。

※岩手県沿岸市町村で栽培を希望する方は無償で商標を使用できますので、ご希望やお問合せは下記までご連絡ください。

連絡先
岩手大学地域連携推進部地域創生推進課
Tel: 019-621-6629
Mail: sanriku@ iwate-u.ac.jp

研究紹介

平泉陶磁器流通経路に関する研究

三陸復興・地域創生推進機構 平泉文化教育研究部門（平泉文化研究センター考古学的研究部門）
平原 英俊（理工学部教授）、**會澤 純雄**（理工学部准教授）、**徳留 大輔**（平泉文化研究センター客員准教授）

平泉からは中国産の白磁と青磁が数多く出土しており、平泉文化研究センターでは、中国産陶磁器の産地であると思われる窯跡群の発掘調査の研究成果について中国浙江省文物考古研究所と福建博物院考古研究所、岩手県教育委員会、平泉町教育委員会の協力の下、その産地推定に関する陶磁器の主要元素の成分と組成の調査を行ってきました。当研究センター所有のポータブルＸ線回折・蛍光Ｘ線分析装置を中国現地まで持ち運び、文化財を非破壊で、同条件下で出土試料を計測した結果、平泉で出土する陶磁器の遺物は、白磁は福建省の閩江流域の窯、青磁は浙江省の龍泉窯（南区）と福建省閩江下流域に近い窯で作られてきたものであることを明らかにしました。さらに、上海博物館が上海市青浦区で青龍鎮遺跡と言われる、唐時代から南宋時代の港湾遺跡を発見、発掘調査を行い、そこで発見された陶磁器の一部が、平泉や博多、京都などの遺跡から出土しているものと共通していることわかりました。上海博物館青龍鎮遺跡考古調査事務所において青龍鎮（港湾）遺跡から発掘された陶磁器の元素分析調査を行うことによって、それぞれの試料の胎土の成分組成を明らかにします。その組成を明らかにすることで多様なる流通経路を明らかにすることが可能となります。

考古学的研究部門では、上海博物館との共同研究、および考古学と理化学的研究、さらには文献学的研究といった文理融合型の研究を通して、平泉の特性を世界史的な視点から明らかにする研究を継続していきます。

中国産陶磁器 1

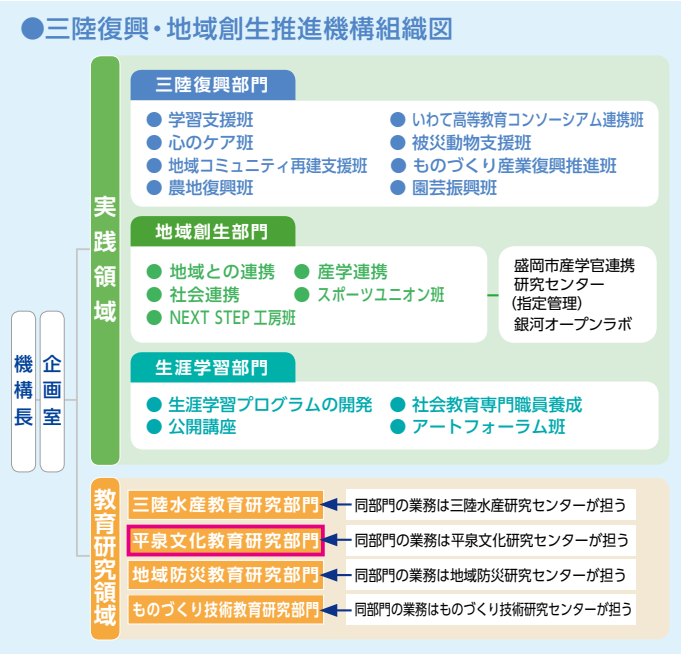
中国産陶磁器 2

平泉水差し

四耳壺

中国陶磁調査

陶磁器調査模様



釜石サテライトだより

昨年度から工事を行っていた釜石キャンパスの新しい建物「総合教育研究棟（水産系）」が完成しました。総合教育研究棟（水産系）は岩手県、釜石市及び文部科学省の補助を受けて、地元の研究者や漁業者も一緒に利用する施設として建設しました。1階は学生の教育研究や地元の方々と共同で利用できる実験室を整備し、2階は学生室、教員室、講義室を整備しました。また、こころの相談室としてのカウンセリングや気分が悪い時に休む休養室も1階に整備しました。

7月1日には文部科学省、岩手県、釜石市の関係者をはじめ多くの方々の出席を頂いて、竣工記念式典を開催しました。式典では来賓によるテープカットをはじめ、施設見学や釜石キャンパスでの研究紹介を行い、続く祝賀会では岩手大学と共同研究を行っている株式会社ゼネラルオイスターより提供していただいたカキフライや、水産システム学コースの学生が開発中のホタテアイスに舌鼓を打ちました。

総合教育研究棟（水産系）の完成により釜石キャンパスでの教育研究が一層進むものと期待されます。

総合教育研究棟（水産系）

記念式典のテープカットの様子